

驚きの連続、40年間の友情

エレン・プライス氏
Ellen Price



N.Y. で彼と初めて会ってから40年になります。この長い年月の間の特に近年、彼を知るという事は重なったたまねぎの皮を剥いて明らかにする様な事なのです。彼に関しては単純に何が皮の中にあるのか分かるたまねぎではなく、その一枚一枚を剥くたびに正に驚きの連続なのです。

1968年、私は銀行で国際金融の企業貸し付けのアジア担当として働いていました。当時、日本担当でとても社会的な同僚がいた事もあり、日本への興味が一層大きくなっていました。その後国際センターで社会人の英語の会話のボランティアになりました。日本人の生徒を希望したはずで、3人の生徒が決まりました。一人はキャンロンに勤めていた方、二人目は、、、すっかり忘れてしまいました。

そして三人目がSyska&Hennesseyで働いていた彼でした。一週間に一度、1時間の個人レッスンは何の話題でも話せるという形式でした。もし彼に英語の問題があれば、初めの段階に影響を与えた私の責任です。

私の仕事上の焦点はヨーロッパでしたが、現在の視野は日本へと広がりました。私と日本には、何かしらの運命的なものが会ったと知るべきだったのかもしれませんが。18歳の時の高校の卒業パーティーのテーマも日本でした。その後どうやって私や家族が日本に携わるようになり、どれだけ日本を愛することになるのか少しは感じていたのですが。

彼がSyska&Hennesseyで働いていた2年間、クラシック音楽の趣味を共有して以来お互いの文化にとっても興味を持っていました。彼がチェルシーのアパートで料理（もちろん日本食！）を振る舞ってくれた事もありましたが、その材料は700軒もの日本食レストランに加え多くの業者がいる今からすると、かなり手に入りずらかったはずで。ロングアイランド、マンハッセの家族の家に遊びに来たこともありました。

彼の記憶力は素晴らしく、長年の活動の記録もそれを助けているようです。その詳細は正に驚きで、彼の多くの様々な興味に見知を与えるものでした。その膨大な記録について知ったのはここ数年のことです。

数年後に1974～9年まで勤めていたギャラリーを訪ねて来てくれ、当時住んでいたブルックリンのキャロルガーデンで夕食を共にしました。日本に初めて行ったのは、1972年に東京野西部美術間で開催されたエゴン＝シーレの展覧会の時でした。その時彼の日本での連絡先がなく同僚がさがしてくれましたが、残念ながら見つかりませんでした。

その何年もの間にはたくさん話があります。彼のアパートの購入を手伝った事。アーティストのスタジオに連れて行った事。彼のクライアントと食事をした事。YAMAHAのバイクに乗り、色々なジャズグループ達と度々日本に演奏に訪れていた素晴らしいジャズトランペッターの Lester Bowie を紹介した事。彼らは出会うべきだといつも思っていました。Lesterのトランペットが日本滞在中に壊れた時、彼と一緒にタクシーに乗ってYAMAHAまで修理に行ったことは最近知った事です。N. Y. では本当に色々な人達と食事をする機会があって、彼の二人の息子さんと会った事もあります。